令和元年度 兵庫県立姫路別所高等学校　学校評価(最終評価)

令和2年3月5日

教育方針	校訓「友愛、責任、自立」のもと、学校・家庭・地域が一体となった教育活動や姫路特別支援学校との交流及び共同学習を通して、「豊かな心」や「共生の心」を育む。また、新しい時代を自立的に生き抜く力を培い、自己の夢の実現に努力を続ける人間の育成を目指す。	
重点目標	1　授業力向上を生徒指導につなぐ「わかる授業」づくりに努め、確かな学力の確立を図る。	0.0 D
	2　キャリア教育を推進し、社会的自立に向けた教育の充実を図る。	2.0 C
	3　生徒指導と生徒支援の充実を図る。	2.7 B
	4　保護者・地域との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。	3.4 A
	5　自己探究類型の教育内容を検証し、更なる充実を図る。	
	6　姫路特別支援学校との交流及び共同学習を推進し、「共生の心」を育む。	

（評価）

4　よくできた　　A　平均　4．0～3．4

3　できた　　B　平均　3．3～2．7

2　あまりできなかった　　C　平均　2．6～2．0

1　できなかった　　D　平均　1．9以下

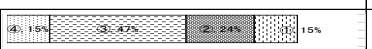
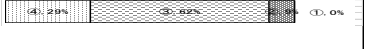
（評価）

28年度平均　2.87

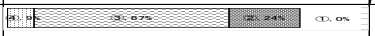
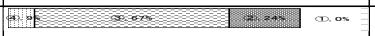
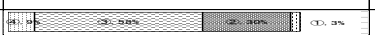
29年度平均　2.97

30年度平均　2.94

31年度平均　3.03

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	28年	29年	30年	31年	評価割合　到達度・取り組み内容、　解決に向けての方策	生徒評価	保護者評価	関係者評価
学校運営	開かれた学校づくり	設備等の整備	0	教育実践の場としての適切な設備や備品などが、整備、運営されている。		2.2	2.5	2.6		2.5	2.7	B
						C	C	C	空調規定に則った空調機器等の使用。廊下や体育館等の照明器具のLED化推進	C	B	
		地域への貢献	1	地域の行事や近隣の施設等に生徒会や部活動の生徒が参加し、地域に貢献し、開かれた学校づくりを推進する。	3.3	3.2	3.3	3.4			2.9	
					B	B	B	A	5/25にPTCA環境整備に12部80名の生徒が参加。10/26の別所公民館ふれあい祭りにも、吹奏楽部・フォークソング部・放送部が参加。		B	
		家庭や地域への情報発信	2	PTA総会や学校ホームページ(通信以外に月複数回更新)、学校通信(月1回)、学年通信を通じて、学校の情報を積極的に発信する。	3.2	3.2	3.3	3.2		2.8	2.8	
					B	B	B	B	夢通信発行、学年通信1年、2年、3年、図書だより等をHP更新。	B	B	
			3	オープンスクール、オープン・ハイスクール、中学校訪問などを通じて地域に開かれた学校づくりを推進する。	3.2	3.3	3.4	3.4			2.9	
					B	B	A	A	第1回オープンスクール10名、オープン・ハイスクールに中学生293名、保護者156名、中学校教員29名が参加。体験授業は11講座実施。特色選抜説明会に中学校教員6名、保護者13名が参加。学校説明会に中学生35名、保護者22名が参加。		B	
		学校評議員の活用	4	学校評議員に日頃の本校の活動を見てもらい、日常的に率直な意見を聞き、学校運営に反映させる。	2.6	3.0	2.8	3.1				
					C	B	B	B	6月17日に第1回評議員会を開催し、議事録をもとに職員会議で説明。行事等に参加していただき意見を承る。2/27に第2回評議員会を実施。			

評価の観点	評価項目	No	実践目標	28年	29年	30年	31年	評価割合　到達度・取り組み内容、　解決に向けての方策	全体評価	教職員評価	職員会評価
生徒指導	生徒指導体制の充実	5	明確な生徒指導基準を設定し、生徒・保護者・教職員間でその共有を図り、指導の徹底を目指す。イエローカード等の活用を図り、学校内でのルール(服装・頭髪)や社会通念上のマナー等を遵守させ、学年進むにつれ指導件数を減少させるよう規範意識を育てる。	3.0	2.9	2.9	3.1	④. 28% ③. 56% ②. 16% ①. 0%	2.9	2.9	B
				B	B	B	B	生徒指導基準を浸透させ、段階指導では「改善シート」を活用。携帯電話使用(H27年1月末326件、昨年1月末101件) は1月末時点で60件。自転車でのながら走行並びにイヤホン使用走行は激減。	B	B	
		6	保護者にも協力を求め、学校全体で登下校指導を行い、生徒のマナー等の向上を図り、交通安全指導や通学路の安全確保に努める。	3.1	3.2	3.1	3.3	④. 32% ③. 62% ②. 6% ①. 0%		2.7	
				B	B	B	B	登下校指導での立ち番に、生徒指導部及び専門部、学年にも協力依頼を行い指導を充実させた。年間6回（計18日間）、飾磨警察署と協力して通学路ﾏﾅｰｷｬﾝﾍﾟｰﾝを実施。		B	
		7	全校集会等で話を聞かせる工夫として画像・ビデオをプロジェクターで投影して生徒の視覚に訴える等、より効果的な指導を展開する。	2.9	2.9	3.1	3.1	④. 26% ③. 56% ②. 18% ①. 0%			
				B	B	B	B	学級委員長の指示で体育館へ整列して移動し、点呼をとっている。全校集会の校長・教頭講話の際、プロジェクターを活用し生徒の理解度向上を図った。			
	基本的生活習慣の確立	8	生活のリズムを整えさせ、規則正しく心身ともに健康な生活を送ることができる習慣を養う。特に遅刻指導を徹底し、遅刻数を半減させる。	2.9	2.9	2.8	3.0	④. 24% ③. 33% ②. 24% ①. 0%	2.8	2.7	
				B	B	B	B	遅刻生徒に対する担任面談を実施し、本年度、初の1,000件以内に収まる予定(H25年度10,000件)。	B	B	
	部活動・自主活動の活性化	9	部活動オリエンテーションを実施し、1年生全員に部活動を体験させ部活動の入部率を上げ、全体の入部率を6割以上にする。ノー部活デーを踏まえ、生徒が自ら考え練習する主体的な取り組みを行わせる。	2.9	2.4	2.5	2.6	④. 14% ③. 47% ②. 33% ①. 6%	2.4	2.5	
				B	C	C	C	女子バスケットボール部、女子バレーボール部が入れ替え戦で活躍。男女剣道部が個人・団体ともに春秋通じて県大会出場。	C	C	
	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	10	生徒との個人面談を早期に実施し、内面理解を図る。生徒実態調査やicheck、CoCoLo-34を活用し、各生徒の状況を把握し、必要な生徒・保護者をキャンパスカウンセラーにつなぎ、教育相談を受けさせる。いじめ対応チームを中心に、組織としていじめの認知を積極的に図る。また被害生徒のケア並びに加害生徒への成長支援を充実させる。	3.2	3.1	3.0	3.2	④. 24% ③. 76% ②. 0% ①. 0%	2.8	2.8	B
				B	B	B	B	5・10月にi-check、7・10月に生活実態調査（生徒・保護者向け）、9月末にCoCoLo-34を全学年で実施し、いじめ認知のための担任面談を行った。	B	B	
		11	社会人基礎力を培う生徒指導をすすめ、生徒が主体的に携帯やネットの問題を考え改善をすすめるよう指導する。小中学生との連携をすすめる。	2.9	2.6	2.8	3.0	④. 24% ③. 58% ②. 18% ①. 3%	3.0	2.8	
				B	C	B	B	生徒会を中心に地域行事（自治会との清掃活動や福祉施設のボランティア、夏祭り等）に参加。	B	B	
進路指導	進路指導体制の充実	12	LHR、総合的な学習の時間など各学年段階に応じた計画的な進路指導計画を作成し、体系的な進路指導を実施する。指導に際して、「進路の手引き」「高校生キャリアノート」を活用し、生徒・保護者に必要な情報を提供する。	2.5	2.6	2.8	2.8	④. 6% ③. 64% ②. 30% ①. 0%	2.8	2.8	B
				C	C	B	B	各学年により進路指導計画を作成、実施。「進路の手引き」「高校生キャリアノート」「進路探究ワーク」をLHR、総合学習の時間を中心に活用。	B	B	
	進路意識の向上	13	キャリア教育の視点に立って、就業体験（インターンシップ）や企業見学、オープンキャンパスや外部講師を活用した進路別学習会に参加させ、体験を通して進路意識を高める。	2.7	2.9	3.0	3.0	④. 18% ③. 67% ②. 15% ①. 0%	2.8	2.8	
				B	B	B	B	2年就業体験43名、3年企業見学16名、看護体験10名。総合学習の時間を中心に外部講師活用。進路別学習会・ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ3年1回、2年1回、1年2回および卒業生によるｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽ1回実施			
	個別指導の充実	14	進路実現に向けて、補習授業や模擬試験、面接練習などを効果的に実施する。更に、挨拶の仕方、話し方、聞き方などの就労支援（ソーシャルスキルトレーニング）を実施し、社会性を培う。	2.8	2.8	2.8	3.0	④. 15% ③. 67% ②. 18% ①. 0%			
				B	B	B	B	全学年で放課後および夏季補習を実施。面接練習も小グループに分け実施。進路実現に向け社会性を培う。	B	B	
教職員の資質の向上	指導力の向上	15	カウンセリング研修や救急救命法など外部講師の活用や他校の有効な情報を共有化するなど校内研修の充実を通して、教員の資質向上を図る。	3.0	2.9	2.8	3.1	④. 27% ③. 61% ②. 9% ①. 3%			B
				B	B	B	B	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞﾏｲﾝﾄﾞ研修を2回、救急救命法研修を実施。			
危機管理体制の整備	実効ある危機管理マニュアルの策定	16	防災マニュアル等を見直し、校内の組織化と役割分担を明確化する。また、病院、警察、自治体、自治会など関係諸機関と連携する。	2.8	3.2	3.3	3.2	④. 24% ③. 70% ②. 6% ①. 0%			
				B	B	B	B	緊急対応マニュアルを作成。分教室とも連絡をとり調整。校内組織・役割分担をフローチャートを使用し確認。姫路市と避難所開設について打合せ。土砂災害に関する避難確保計画の作成。			
学校運営全般	学年・学級経営	17	生徒、保護者のニーズを把握し、「夢の実現」に向けて、学年・学級で実践目標を立て、その実現に向けて努力する。取り組み状況を学年通信で伝え、保護者会、三者面談、家庭連絡等家庭との連絡を密にとり、信頼され学校づくりを推進する。	2.9	3.3	3.1	3.1	④. 21% ③. 67% ②. 12% ①. 0%	2.9	2.9	
				B	B	B	B	各学年家庭連絡を密にとり、全員に三者面談を実施。各学年学年新聞を定期的に発行し、保護者への情報発信を行っている。	B	B	
PTCA活動	PTCAとの連携	18	通学マナー指導や地域の環境整備活動、学校行事などへの積極的な参加協力により、教育目標の具体化を図る。	2.8	3.1	3.2	3.3	④. 39% ③. 55% ②. 6% ①. 0%		2.7	
				B	B	B	B	5/8～10、6/17～19、9/9～9/11、11/18～11/20、1/15～1/17にPTA役員が生徒指導部と連携して通学マナーキャンペーンを実施。北宿自治会と連携して5/25にPTCA環境整備を実施、自治会15名PTA20名参加。		B	

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	28年	29年	30年	31年	評価割合　到達度・取り組み内容、　解決に向けての方策	生徒評価	教職員評価	学校関係者評価
教育課程	自ら学び、自ら考える力の育成	体験的な学習の展開	19	ボランティア実践やふれあい育児体験など、地域の教育資源を生かし、本校の特色を生かした体験的な学習の充実を図る。	3.1	3.1	2.9	3.2		2.8	2.8	B
					B	B	B	B	老人ホーム実習4回、保育所実習5回実施。	B	B	
		生涯学習の視点に立った実践能力	20	漢字検定や英語検定、情報処理検定等の資格取得を目指し、生涯を通じて学び続ける意欲と態度を育成する。	2.9	3.2	3.2	3.2				
					B	B	B	B	資格取得に向け個別指導も含め、きめ細かな指導を行った。漢字検定3回、英語検定3回、簿記検定1回、ビジネス文書検定2回、危険物取扱者（乙4）3回実施。			
	基礎・基本の定着	わかる授業の展開	21	授業アンケートを行い、生徒にとってわかりやすい授業を行うべく授業改善に努める。生徒が主体的に学ぶ「アクティブラーニング」の手法を取り入れ、生徒個々の学力に応じた指導方法を工夫する。	2.6	2.9	2.8	2.8		2.8	2.8	
					C	B	B	B	積極的に授業の流れの中にALの手法を取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する授業改善に努めた。授業アンケートを実施し、授業改善に努めるため、教員ごとに集計し、見やすいよう個別にファイルにまとめてフィードバックを行った。	B	B	
	個に応じた学習指導	個に応じた学習指導の徹底	22	定期考査や模擬試験等の結果を分析し、生徒個々の学力を的確に把握し、習熟度別授業、週末課題、指名補習等必要な指導を行うことで学力の定着を図る。	2.6	2.8	2.7	2.8		2.9	2.8	
					C	B	B	B	考査および模試の結果をフィードバックしてきめ細かい指導を行っている。英数国を中心に週末課題を課している。	B	B	
	総合的な学習（探究）の時間	創意工夫を生かした実践の展開	23	生徒の多様な興味・関心、能力・適性、進路希望など生徒のニーズにあった学習テーマを設定し、実践する。	2.4	2.7	2.9	2.7		2.9	2.9	
					C	B	B	B	ICT活用など教材、展開の工夫を行っている。（1年生で政治的教養を育む教育・防災教育と関連させ、地域社会の課題発見・解決する力を育む取組を実施中。2学期にｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ力を育む授業を実施。）	B	B	
	特別活動	生徒の自主的な活動の活性化	24	学校行事やボランティア活動において、生徒会等が企画、運営にかかわり、生徒の自主・自立の意識を高める。	2.9	3.1	3.0	3.2				
					B	B	B	B	地域各所（北宿・別所公民館・農協・JR駅前・別所交番・主婦の店・たい焼き屋等）に花プランターを設置。			
課題教育	防災・安全教育	防災・安全教育の充実	25	自然災害や不審者の侵入など不測の事態に適切に対応できるように、行事や共同学習中等様々な条件下で避難訓練を行い、防災・安全教育の充実を図る。	3.1	3.2	3.4	3.3		3.0	2.9	B
					B	B	A	B	7/18に姫路特別支援学校分教室との合同避難訓練を実施。自衛隊と連携して第2回防災避難訓練を実施。	B	B	
	人権教育	人権教育推進体制への取組	26	学年と人権教育委員会が連携し、ホームルームや講演会などを活用して計画的な人権教育を展開し、自他の命を大切にし、自他に対する肯定的な態度を育てるなど、共生社会に向けて、人権に対する理解と意識を高める。	2.5	2.4	2.6	2.8		2.9	2.9	
					C	C	C	B	系統的な人権教育の実施に向け、学年と人教育の内容を検討、外部研修ごとに職員会議等で報告。1年生を対象に「障害とは」と題して講演を実施。1年間の取組をまとめ報告。	B	B	
	情報教育	情報活用能力の育成	27	情報機器の基本的技術及び情報活用能力を育成し、情報処理検定などの資格取得を目指す。	2.9	3.3	3.0	2.9				
					B	B	B	B	資格取得へ向けた補習を実施。また1年の社会と情報で「情報モラル」や「ネット社会の危険性」について学んだ。			
	学校の個性化・多様化	特色ある教育課程の編成	28	興味・関心や進路希望等に対応できる教育課程を編成し、学校設定科目や多様な選択科目の内容を検証し、特色化と内容の充実を推進する。	2.5	2.8	2.8	2.8		2.9	2.9	
					C	B	B	B	教育課程委員会で新学習指導要領も視野に入れ、検討している。 総合的な探究の時間に向けた準備を進めている。	B	B	
			29	自己探究類型の福祉、情報・商業、保育、医療・看護の4分野について、これまでの取組を検証し、内容の充実を図る。	2.8	2.8	2.9	2.9		2.9	2.9	
					B	B	B	B	兵庫大教員による特別授業の実施。兵庫大学訪問。7月には1年特色選抜合格者対象のガイダンスを実施。看護系で特別授業を実施し講座の充実を図る。	B	B	
		外部講師の活用	30	インスパイアハイスクール事業、特別非常勤講師等外部講師を活用した授業や部活動指導、講演会などを通して、生徒の多様な興味・関心に応える教育を展開する。薬物乱用防止、DV防止、情報モラル啓発等様々な場面で活用をすすめる。	2.9	3.1	3.1	3.1				
					B	B	B	B	特別非常勤講師の活用（生活と福祉、ボランティア実践、音楽Ⅱ、保育音楽、医療とホスピタリティー、総合：食を科学、共に育つ保育）、2年生を対象に姫路南少年サポートセンター所長による薬物乱用防止講演会を実施。			
		交流及び共同学習の推進	31	交流及び共同学習や体験学習を通じて、共生の心を育み、自己有用感や自尊感情を育成する。	3.2	3.3	3.0	3.2		2.9	2.9	
					B	B	B	B	ボランティア実践、生活と福祉等で交流及び共同学習を実施。1年生全員を対象に企業請負作業への参加を実施中。その裏で行う現代社会の授業でも、共同学習を実施中。5月に「交流及び共同学習委員会」を開催し、今年度の交流及び共同学習について検討した。	B	B	
学校運営	勤務の適正化	勤務の適正化	32	勤務の適正化を図り、ワークライフ・バランスを確立するとともに、生徒と向き合う時間を確保する。			2.3	2.6				
							C	C	従事時間申告表の100%提出の実現。全教職員水曜日19時完全退庁を目指す。職員室の整理整頓等や空調規定の見直しを実施し働きやすい環境づくりを行う。			